

# 「道徳の時間」の指導のあり方

## —授業ビデオ「語り合い」の視聴を通して—

庄子 豊

### はじめに

道徳の時間は、児童・生徒と教師との一問一答ではなく、資料を通した友達との話し合いで「ぼくと同じだ、少し違うな」等の考え方を述べていくものである。また、自分を振り返る際の話し合いも、友達の考え方・感じ方を聴きながら「あれで良かった、少し違っていた、もう少しこうしよう」等、様々な角度から自分を見つめていくのである。

そのためには、友達の多様な価値観に出会うことが、何より大切なのである。友達の考え方や、感じ方を受けとめ互いに「語り合う」ことによって、自分をさらに深く見つめることにつながるのである。

本稿では、授業ビデオ「語り合い」の視聴を通して、「道徳の時間」の指導のあり方について述べていきたい。

### 1 授業ビデオの視聴のねらい

- ・学生による模擬授業を行う前に、ビデオ視聴することによって、道徳の時間の授業展開を知る。
- ・児童・生徒の「語り合う姿」を視聴することによって、道徳の時間は多様な価値観にふれることの大切さを知る。
- ・展開後半の、自分を振り返る段階の「語り合い」が、自分を深く見つめることにつながることを知る。

### 2 講義の流れ（90分）

講義は、授業ビデオ視聴を主とし、その前後に指導案と授業についての説明とした。

・前時の確認	5分
・学習指導案の説明	10分
・授業ビデオの視聴	45分
・授業ビデオについて説明	15分
・学生による視聴後の感想	10分
・本時のまとめと次時予告	5分

### 3 授業ビデオについて

筆者が、横浜市内の学校に勤務していた時の道徳の授業をビデオに撮ったものである。横浜市内、県内外の現職教員が参加した「道徳教育研究発表会」で、授業公開した時のものでもある。

この研究発表会は、～道徳的価値について「語り合う姿」を求めて～を研究テーマにして「語り合う姿」の大切さを追求したものである。

#### なぜ「語り合い」が大切なのか

道徳的価値は、現実の生き方の中で様々な姿をもって表されている。学級内の児童・生徒一人一人の「様々な価値観」に出会わせていくことが何より大切である。

教師主導の一問一答で進められる授業では、多様な価値観に出会うという点で、難しい。な

ぜならば、子どもたちは友達に話そうとするより、教師に自分の考えを伝えようとするからである。自分の考えを友達に伝え、友達の考え方や感じ方を素直に受けとめるという「語り合い」によって、自分をより深く見つめることに繋がるからである。

#### 語り合いを成立させるために

次のようなことに配慮することが必要である。

- ・学級内の人間関係が、お互いに何でも話せたり聴いたり出来る雰囲気になければならない。認め合い・励ましあいが、さりげなく出来ている学級作りが大前提となる。
- ・日常的に、自分の考えを述べたり、友達の話をしっかり聴いたりする態度を、養っておく。
- ・語り合う時、関連したことを話すよう指導する。
- ・教師が児童・生徒の考え方の傾向を把握しておき、ゆったりとした態度で授業に臨む。
- ・座席をコの字型や丸くするなど、友達全員の顔が見えるようにし、「話す」「聴く」が、し易いよう工夫する。

#### 4 語り合いにせまる指導過程

道徳の時間の指導は、「児童・生徒の実態→本時のねらい→学習課題→資料」が連動していることが大切であり、前提となる。

その上で、次のような指導過程が、「語り合い」に迫るために大切である。

##### 指導過程 (例)

「自分の問題として意識する」

↓ (建前と現実の姿のずれに気づく)

「本時の課題」

「資料を読む視点を与える」

↓ (本時追求する点を知らせる)

「自分と資料中の主人公の異同探る」

↓ (主人公のものの見方を探る)

「ねらいをはっきりつかむ」

↓ (価値の意味をはっきりつかむ)

「自分を深く見つめる」

↓ (自分を振り返る)

「実践意欲を高める」

(友達の作文や教師の説話等から)

#### 5 授業ビデオの指導案の概要

主題名 みんなのものは4-(1)

資料名 水のみ場 出典 (文溪堂)

##### 資料の概要

使い方が良くないため、水が溢れそうになっている水飲み場を見て、よしお君は使うのをやめ、ひろ子さんはいやがらずにきれいにしたという話である。

##### 本時のねらい

みんなで使う物や場所の大切さに気づき約束を守って気持ちよく使おうとする態度を養う。

##### 展開の概要 (◎は主発問)

##### 1 導入

○みんなが使う教室や廊下が汚くなってしまうのはなぜだろう。

[学習課題の提示]

##### 2 展開

[資料を読む視点を与える]

○水を飲みながら、ひろ子さんはどんなことを考えただろう。

○ひろ子さんは、よしお君のようにもどらず水のみ場の掃除を始めたのはどうしてだろう。

◎みんなで使う物や場所について、ひろ子さんとよしお君の考え方は、どのように違うだろう。

[ねらいをはっきりつかむ]

##### 3 振り返り

[自分を深く見つめる]

○学校の物や場所を大切に使ったことや、大切に使えずにいたことについて話し合おう。

#### 4 教師の説話を聞く

〔実践意欲を高める〕

### 6 授業ビデオ視聴後の学生のアンケートより

実際に映像で見ることにより、1時間の授業の流れがよく理解出来たと思われる。また、展開部分の「語り合い」についての感想も、もったようである。

「学生のアンケート」では、次のような感想を挙げている。(一部抜粋)

- ・授業を見たのは初めてのことで、参考になった。「間」をとって、子どもたち自身に考えさせていた。
- ・子ども同士の考えのやり取りが多くあった。語り合うという姿勢が浸透していた。
- ・様々な考え方が出た授業形式だった。振り返りの大切さがわかった。友達の意見を「聴く」態度の重要さがわかった。
- ・先生と子どもの関係、友達同士の関係や雰囲気などの環境の大切さがわかった。
- ・子ども同士が語り合いやすいように座席の配置を「コの字型」にしていた。
- ・発言が同じようなことの繰り返しであった。
- ・相互指名形式であったが、指されない子がいて気になった。
- ・先生が、子どもが発言している途中で遮ったところがあったが、良くないと思った。

### まとめ

机上で「道徳の時間」の授業展開を述べてもなかなか理解できない面も、映像で見ることで、理解がされやすいと感じた。

多くの学生は、ビデオ視聴を通して、「道徳の時間」の指導について、気づきがたくさんあつ

たようである。特に、児童・生徒の「語り合う姿」を見て、多様な価値観にふれることの大切さを理解していたと思われる。

同時に、授業の展開そのものに課題もあった点については、説明による補充も必要であった。

このように、ビデオ視聴を取り入れた講義にも、まだまだ配慮を要する点もあるので、今後も、ビデオ等の活用の仕方を修正したり、現在の学校現場の状況を資料として取り入れたりして、「道徳教育論」の授業の充実を図っていきたい。